

沙石集 三・四 （天和三年版）

梶山女学園大学デジタルライブラリー

梶山女学園大学図書館

沙石集

三

四

卷

四

波石集卷第三 上

目錄

紫薇山房藏

癡人の利只事
言感あはる事

阿波岐曾舩蔵書



91B1892

沙公集卷第三上

癩癩人の利尻事

あは里に癩癩人の病おる男ありたりけ。病は大
 のほろろ。その癩癩人の多々。中あしむらう。んう
 ま。病也。俗に癩癩ともなり。あつ時大いへう。う
 めして。倒の病おる。河へおら入る。水はよた
 う。ひと。ごう。う。い。た。が。統。終。と。河。中。中。れ。と。と。と。
 ち。れ。よ。と。れ。ね。だ。づ。り。ま。て。う。と。う。り。て。こ。い
 け。に。い。て。が。は。は。あ。あ。つ。と。や。と。思。ひ。め。ら。く。ひ
 け。と。い。ま。い。の。病。に。り。ま。あ。河。へ。お。ら。入。に。り。あ。よ
 か。う。り。り。り。あ。う。ぬ。と。お。ら。海。へ。く。あ。り。と。と。統

して四の節と申さう。十八の大なる懸と
 まひたわらぬ。かく辭しし海つらひ。おのての
 こもなわらぬ。人の福とらひぬ。また人の事と
 うもふ。生死の力。徑業とらぬ。思ふ務ある。
 なるの疑わりて。者。事。つらひと。いふ。
 めこれ。まこと。人の思と。つらひぬ。人の
 力と。思と。自ら。あ。び。せ。の。人。は。あ。ら。う。つ。ら。ひ。ぬ。
 と。あ。ら。う。の。也。其。と。う。の。ご。ま。が。い。ふ。は。ま。ま。う。は。
 な。り。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。人。の。事。と。我。力。い。う。を。
 け。我。身。つ。ら。ひ。ぬ。は。ひ。れ。よ。は。え。う。う。の。ご。ま。が。い。ふ。
 一。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。う。ら。の。世。法。と。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。

かな。一。力。と。や。な。り。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。先
 心。と。い。ふ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。我。と。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。又。わ。ら。ぬ。
 ひ。も。な。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。又。大。力。な。思。は。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。
 大。力。と。い。ふ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。身。あ。や。う。と。事。わ。り。上。た
 け。下。と。う。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。心。な。く。思。は。ぬ。
 何。の。い。は。れ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。な。た。の。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。
 なく。ひ。れ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。出。離。つ。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。
 く。道。行。の。心。と。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。
 と。な。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。
 と。な。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。
 と。な。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。ま。ま。う。つ。ら。ひ。ぬ。

西くもとるなり。勝軍海師の云ハ肝よそじ
 て我是く作る。織ハ佛道を行ぜんと思フ人々
 世間の要務とてしひがづひの念織よ進げくべし。
 けし、母若導和尚の般舟頌よ曰
 普勸同行知識等
 父母妻兒百千義
 念之相纏入惡道
 或在猪羊六畜内
 慶得人身聞要法
 父子相見非常喜
 然亦併た入同縁善知識母とて此よりいなす。

同行相親莫相離
 非是言提增上縁
 分身又報不相知
 披毛戴角何時了
 頓捨他家歸本國

父母妻子心はるの、何ハ愛習と海。思ひそむ
 く、内ハ惡心と起と。そにかく母、務廻の業とのそ
 め善知識とならる。母若れ也。そはわ母。業より海
 るそく惡道より。毛と著角とつてく畜類に
 たり。昔れ惡情とだ。ひ母と親か。心道
 人勇とそめく要けとそく。惡縁乃他念編とそ
 て。海施のや圓海へ。そく母若なり。父母妻
 子なる。そひく。海とれ道母の。母と
 こそく。善の母入と。善美の報母の者。そなり。惡達
 太子金輪の位とそく。檀特山入車匿とそく。深
 色し。海の。何車匿た。そく。深美母長女

万人より倍しれ申しりくさくは深山よたぐ一人を
てうとまもれ終つてははなすてししりしりし生
死のたもひは独生は独生の中回し何ぞも
びも人も人ともかかん我々もろとろとらん時
切を生とろりやもてしとてまもて色しり
らして三界は独生と成四生の群衆とら
ひは終ひ成滅し生老病死の四苦充滿の
いとしりしは前後あもせそひしりしは
夢のてしりし死しりしりし業もまも
てあかしの果とらん時我も人とろりし人
我としりしと山野のいりしりしは江海ら

くはとあもただひもらりし食してじりし情
も世もろろろりしは終ひは終ひの菩提心とあ
父母妻子のなまのりしと山林閑静の居を
め善友母らつづつては終ひしと善友母解し
如記し修行して生死とろりし浄土よ生す
と純し神通とろりし持くの方便とろりし
有縁れ父母妻子等を教化し浄土よ生す
土の枝葉とろりし無為自然の果報とて生老
病死のろりしとろりし愛別離苦成りし
たろりし不還の無海の仏國に行りて
十方れ仏母は久あまのて六劫の生れ利せん時

向亦而求一念之念是絶妄之利。不觀之觀則見
眞之明眼有機。有時忽然悟解。一念不生。即
名爲佛。とされハ唯識觀成就ヤ人阿ハ任ヤハ

一と任と進任一とハ任ヤハカ一と進任ヤ

ぬけり。ハ任ヤハ人ハ一と一と一と。又金剛經ハ

釈迦大師。ハ一ハ菩薩ハ行ハ行ハ一ハ燃燈佛

の記。ハ一ハ燃燈佛ハ我ハ記ハ一ハ燃燈佛ハ

燃燈佛ハ我ハ記ハ一ハ燃燈佛ハ我ハ記ハ

一ハ燃燈佛ハ我ハ記ハ一ハ燃燈佛ハ我ハ記ハ

後法と云ふ人。衆海にありて。一と云ふ。此字の
 方便文字と云ふ。義理を好む。直に本性
 と云ふ。海と云ふ。自心と云ふ。法教ハ惣持と
 文字の道と云ふ。文字より云ふ惣持と云ふ
 心教と云ふ。急相と云ふ。心教と云ふ。急相と云ふ
 心教と云ふ。曲て機情と云ふ。禪門ハ單傳密
 印不立文字の方便なる也。初めより。急解情量
 と云ふ。曲て機情と云ふ。直示の
 便と云ふ。この一見性成仏と云ふ。教の談
 所觀の性を見。凡丈の情と云ふ。成
 身と云ふ。心地と云ふ。心無染。工をを
 この門乃方便。古徳の云く。禪門ハ解脱の門。意
 道人の意と云ふ。密の道體ハ只佛知見。方
 一心の妙體。禪教ハ道同也。是故。荷擔の云く。我
 世禪門。一乘妙旨。以無念為宗。無任為本。真
 為體。妙有為用。妙有即摩訶般若。真
 法淨。涅槃。般若。無見。法見。涅槃。無生。法生
 般若。四天。法。共傳。無任之心。同。如來之知見
 首楞嚴。淨。説く。知見。立。無。即。無。明。本。知見

所觀の性を見。凡丈の情と云ふ。成
 身と云ふ。心地と云ふ。心無染。工をを
 この門乃方便。古徳の云く。禪門ハ解脱の門。意
 道人の意と云ふ。密の道體ハ只佛知見。方
 一心の妙體。禪教ハ道同也。是故。荷擔の云く。我
 世禪門。一乘妙旨。以無念為宗。無任為本。真
 為體。妙有為用。妙有即摩訶般若。真
 法淨。涅槃。般若。無見。法見。涅槃。無生。法生
 般若。四天。法。共傳。無任之心。同。如來之知見
 首楞嚴。淨。説く。知見。立。無。即。無。明。本。知見

我既如幻也。因覓經云。非作故。無本性。無故。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

三陽... 佛... 行... 大... 益... 因...

事^ニ多^ク也^シ。訪^ヒひたり。いふ^ニ。悔^ミふと。大事^ノ乃^チ抱^キてと。
 て。醫^シ師^トと。ひく^ニ。見^レた。ゆ^キ。こ^ト大事^ノ物
 たり。老^シ。こ^ト療^シ治^ス。下^ニ。そ^レ。大^キ針^ト。そ^レ。か^クと
 座^ニ。さ^レ。や^ク。木^ノ。わ^ク。こ^ト。い^ハ。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ
 事^カ。さ^レ。り^キ。あ^リ。こ^ト。ま^シ。罪^ト。と。發^ス露^シ。憾^シ。悔^ミ。セ^シ。こ^ト。か
 ぐ^ニ。こ^ト。ま^シ。英^ノ。魔^ノ。の。廳^ニ。庭^ニ。あ^リ。て。俱^ニ。生^シ。神^ノ。の。簿^ニ。を
 文^ノ。津^ノ。利^ノ。鏡^ノ。の。影^ヲ。か^ク。ま^シ。た^リ。こ^ト。十^ノ。王^ノ。冥^ノ。官^ノ。の。ま^シ。
 別^ニ。ま^シ。こ^ト。阿^ノ。防^ノ。羅^ノ。刹^ノ。ま^シ。こ^ト。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ
 こ^ト。に。わ^ク。と。地^ノ。獄^ト。ま^シ。こ^ト。ら^ク。大^キ。苦^ト。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ
 終^ニ。因^ノ。果^ノ。の。道^ヲ。理^ヲ。と。知^ル。事^ヲ。理^ヲ。の。憾^ヲ。悔^ヲ。と。行^ヒ。ま^シ。
 同^ニ。大^ノ。官^ノ。の。時^ニ。鎮^ニ。西^ニ。父^ノ。の。跡^ヲ。と。先^ニ。才^ノ。相^ノ。後^ノ。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ

り。父^ノ。食^ヲ。う^テ。取^リ。食^ス。と。り^キ。を。婦^ノ。か^ク。こ^ト。ら^ク。の
 こそ。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 ち^ク。せ^リ。り^キ。か^ク。り^キ。を。お^シ。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 り^キ。才^ノ。も^シ。通^シ。と。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 祈^ヒ。招^ク。と。才^ノ。の。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 あ^リ。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。知^ル。道^ヲ。理^ヲ。あ^リ。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 て。上^ニ。の。共^ニ。に。其^ノ。い^ハ。れ^ヲ。わ^リ。成^シ。敗^ス。と。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 の。家^ニ。た^リ。の。法^ヲ。家^ヲ。勸^メ。入^リ。て。い^ハ。く。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 ち^ク。有^リ。と。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。父^ノ。と。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。才^ノ。の。あ^リ。ま^シ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 小^シ。と。ち^ク。の。他^ノ。人^ノ。と。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。こ^ト。ら^ク。悔^ミふ。
 至^リ。孝^ニ。は^リ。と。の。才^ノ。が^ク。道^ヲ。理^ヲ。也^シ。仍^シ。才^ノ。安^シ。地^ノ。乃^チ。下^ニ。支

洗石三

上

サ

や。書よ。貪賤の知人不可忘。糟糠の妻。正下室
 し。り。貪乏時の知人をり。と。素と。平く。下さ
 せ。た。り。ん。げ。解。結。人。れ。心。古。人。の。と。し。よ。り。り。人
 心。思。と。し。ひ。ま。ふ。い。け。の。こ。と。を。得。る。也。在。く。表。也
 り。の。公。た。る。下。福。裕。よ。貪。而。無。福。富。而。無。驕。人
 貧。常。の。る。心。た。心。さ。く。し。て。つ。か。さ。こ。と。こ。と
 福。へ。い。び。又。富。人。の。心。を。わ。か。り。た。も。り。に。し
 う。り。事。も。も。災。難。も。事。り。病。死。の。患。も。何。の。富
 む。付。く。い。ひ。よく。け。し。し。下。落。例。と。わ。か。り。し
 無。道。の。推。察。も。い。び。屋。あ。り。満。ま。ど。れ。と。に
 満。て。心。思。入。り。も。わ。か。り。た。器。母。の。わ。か。り。し。し。

と。思。や。し。り。人。先。を。け。し。海。と。て。威。勢。よ。ゆ。を
 く。人。と。換。へ。民。と。な。り。ま。は。ひ。の。け。り。二。期。も。た。り
 か。く。み。給。も。い。び。か。り。今。も。た。や。と。く。し。業
 世。も。く。り。し。ま。下。け。し。し。しく。秦。時。の。常。也
 一。し。も。さ。り。有。貪。而。不。福。無。富。而。不。驕。そ。我。力
 は。幾。人。と。わ。か。り。ま。あ。り。人。と。り。ま。し。世。と。か。り。つ
 一。し。も。二十。年。は。万。世。と。な。り。天。下。は。ち。や。あ。り。さ
 民。の。う。し。し。と。思。ひ。く。は。井。舟。造。作。あ。り。ま。り。も
 或。時。の。物。結。也。世。と。な。り。な。さ。り。人。の。家。の。と。く。板。と
 肉。れ。と。り。し。ま。事。あ。り。ん。と。あ。り。春。時。の。志。也
 一。し。も。板。の。肉。と。み。く。と。成。ま。り。と。し。を。得。あ。り。つ。ら。と

人々の中よそへしきさきり終ひ。改くよみまもせんと
 と思ふ所なり。世の俗のしく。雅くもかくしそ存
 久大方の用心のよきも。築地^{ついち}もはつと。かりは
 もく作らん。日出くいあん。若一本はくはさ作
 らん。十日よひまはらう。やまも中へ。なごそ
 けはよ。せししくし。世はく。と。口々にし。き
 せむ。うらう。かつき。各の山ご。の久の。色く
 玉那く。きく。作。ま。ま。い。思。う。あ。ま。い。田。か。り。ま
 屋もく。し。そ。思。ひ。終。く。そ。も。圓。く。り。人。ま。た。の。り
 てはく。ん。事。し。む。り。方。さ。わ。つ。し。大。事。と。え。と。え
 月心のよきや。俗人とも。春時運つる。作たは。

くらひの。は。井。ら。と。つ。き。と。い。た。う。そ。り。り。の。り。運
 有き。石。は。つ。つ。う。く。か。つ。て。作。る。も。何。の。う。と。ふ
 かり。あ。ん。ど。り。て。ゆ。り。も。も。く。さ。り。さ。れ。時。馬。人。お。ち
 入。く。中。く。う。う。金。な。ま。さ。う。う。ひ。物。あ。わ。く。ま。ん。
 へ。く。板。れ。ま。さ。あ。ん。ど。い。か。う。も。あ。う。作。あ。ん。と。し
 う。ま。な。れ。い。ん。と。と。ば。あ。い。心。あ。う。人。の。感。激。を。お。ほ
 かり。ら。ゆ。り。も。う。も。流。り。り。も。石。さ。の。後。林。あ。う。う。
 ゆ。で。ま。の。府。人。さ。し。も。感。じ。思。ひ。ゆ。り。り。め。か。く
 あり。し。今。そ。子。孫。の。よ。く。繁。昌。せ。り。情。の。た。た。め
 あり。た。道。理。ゆ。し。た。思。ひ。知。ま。ゆ。り。故。鑑。倉。の。大
 長。屋。上。居。あ。る。と。ま。さ。る。ま。り。あ。う。世。間。の。人。く

内々あひさし子御さうりつうくおして衆とあは
 合しやいかなるの祥定有らうよ。上の山氣色ををそ
 もそくしてはあつたまそく子御しと人あつりひつた。
 故筑後入道知家遅参とたまふ人也。異とんしと
 うー山氣色有られた。天皇しゆふと作なりとそ。
 をそ物の王もそ作なりゆふと。このとをそ海うん
 と思ふ心ありと之どもかのゆふ音とさうくりと物。
 とくを肝心とさうなひ。或は余もさう作と
 とく。君と人となるまうんと思念海ありと之とも。
 民のあひさしとふいさうんと作られた。山氣色を

悦有り。聖人の心あり。衆人の心をみく心とともひ
 て人の心とともひく。民のまうひと思ひひん。海と
 舟と船とを。賢王も。賢王の生まふ事とて。君
 も長も。仁慧と心と。一箇國あさうり。民安しと作
 け。謂然魏の文王我を賢王也と思ひく。長下の中。
 て。朕ハ賢王也。厚く同参ふ。任左とつ。大長。君を
 賢王もそ。ハ内と女もそと。作。い。ま。と。同参。ハ。天。の。あ
 たり。位。と。く。お。し。て。賢。王。と。ハ。中。也。威。と。以。て。位。に
 つ。も。参。る。り。賢。王。の。儀。も。ハ。あ。ら。う。と。い。ふ。こ。も。ハ。伯
 父。の。位。と。う。ら。ひ。の。后。と。う。ら。く。我。者。と。一。給。る。り
 事。と。思。ひ。く。一。ら。う。と。一。と。そ。い。ら。う。と。所。と。か

西中さきわれり。さき乃藤原官^{藤原官}づて合て
 阿ひさる色もして。西中も西中^{西中}なり。西中
 中れ上下。かゝる言よ。さすそ。さすそに言
 水乃房友。おもむくひくうらあきて。いふ。いふ
 影と同一。鏡とさる心地。さる事とこころさる
 くと奥に入るとおもふ。感^感トク。時^時もさる。ゆじ
 く。さる。さる。古^古く。銅^銅とて鏡^鏡うして。さる
 冠^冠とたぐ。さる。鏡^鏡うして。得失^{得失}とさる。た
 ち。鏡^鏡と。十七^{十七}ハ興^興廢^廢とさる。さる。鏡^鏡う
 て。いふ。鏡^鏡と。照^照と。さる。世^世間^間の人の。我^我失^失とわさる
 人。の。失^失と。さる。人。の。鏡^鏡うして。我^我身^身と照^照と

事^事の。さる。さる。人。と。さる。さる。て。我^我身^身と
 失^失と。さる。さる。人。と。鏡^鏡と。さる。心^心也^也。人。の。さる。さる
 事^事の。さる。さる。人。の。我^我身^身と。又^又人。の。か。れ。れ。と。さる
 事^事の。又^又人。の。得^得と。て。我^我身^身と。さる。失^失と。照^照と。さる。又^又古
 の。さる。さる。事^事の。と。聞^聞く。今^今の。さる。さる。さる。事^事と
 わさる。さる。事^事の。鏡^鏡と。さる。心^心也^也。上^上官^官太^太お
 の。十七^{十七}憲^憲法^法也^也。いふ。面^面れ。忿^忿と。さる。心^心の。瞋^瞋と。さる。め
 事^事の。さる。さる。人。の。瞋^瞋と。さる。人。の。いふ。有^有て。各^各人
 事^事の。執^執と。さる。事^事の。我^我身^身と。是^是ハ^ハ人。の。非^非。人。の。是^是ハ^ハ人。の。非^非。
 我^我身^身と。さる。事^事の。我^我身^身と。彼^彼も。さる。さる。さる。事^事と。凡^凡

是の如くは。其の通凡也。是非の理をたれ。是非をさ
 りんとつひつり。ゆゑに。凡心各執を心也。妄情の
 上は是非の道。是非をたれ。非をさす。人の非をせ
 鏡なり。我は是とて。我も是非も是非あり。人の
 非も非あり。せば。故に。百人のいへ。是れ中意
 有無。有無共母。一く無也。迷の非は是非。是非
 俱非なり。是れ得失是非。一時母放下。物
 我一如。自他平等の大道を達せんとす。や
 荷澤の第六の祖。慧法嫡弟。即第七祖師也。如
 来知見と云は。法苑の四の知見也。無任の心。淨名
 在任の本。禪教の正法。不定方便。故に。興也。

他郷と云は三界也。中國ハ淨土也。安樂集母有云。
 敵國よ人の子とて。悪使り。中國ハ歸
 らんと思ふ。安樂と他國と思ひ。極楽と中國
 父母の國と思ひ。淨土ハ行業とて。と云り

迷懷云

わががら母目もや。人となつて。目
 目見せん人。ともま。思ひ。思ひ
 法もをた。思ひ。思ひ。思ひ。思ひ
 人よむ。思ひ。思ひ。思ひ。思ひ
 魚つ。思ひ。思ひ。思ひ。思ひ
 まが。思ひ。思ひ。思ひ。思ひ

勝軍^{カウケン}禪師^{ゼンシ}の心と案^{アン}一^{カク}也^{カク}よめる

沙石集卷第三上終

沙石集卷第三 下

目錄

嚴融^{エンジュウ}房^{ボウ}中^{チュウ}妹^{イモ}の女房^{メカド}と問答^{モンカウ}之事^{ノコト}
禪師^{ゼンシ}之^ノ問答^{モンカウ}是非^{シヘイ}之事^{ノコト}
律^{リツ}の学^{ガク}匠^{シヤウ}之^ノ学^{ガク}與^{ヨリ}行^{コト}相違^{サイイ}之事^{ノコト}
小兒^{コエ}之^ノ忠言^{チュウゴン}之事^{ノコト}
孔子^{コウジ}之物^{モノ}波^ハ之事^{ノコト}
梅尾^{ウメオ}の上^ノ人^{トシ}物^{モノ}結^{ムス}て事^{ノコト}

沙石集卷第三下

嚴齋房與妹の女房と回答の事

中比甲斐丸圓に嚴齋房と云ふ字面有るは
 約者あり。後仕立事一也。字面一りり。阿まら
 母腹あり。或上人も。修訂者也。時非時さづくり
 ろうと云はぬ。湯のあつさ。ぬるさ。まうり。とささ
 をも腹立疾りてささ。後ハ法師も抱くらせしや
 ちうりささ。くさい。て打とささ。ちうりささ。その
 わらひとらんささ。障子のひゆるりのささ。何
 さい何ささ。ささ。ささ。腹立られつ。ささ。ん
 よう。びん。ささ。ささ。ささ。ささ。ささ。ささ。

心ゆゑにわづらひしきありありあるをいふなり。如實
 の行ハ多聞よりとらうとく。多聞ハ實智と生じ
 因縁といはる也。或偈のいふ。智慧なく愚癡なる
 在偈の不畜不畜なるいふは。是事よりして。多聞
 廣きれば傍の中。心ゆゑにわづらひしきありありあるをいふなり。何ぞ
 ありしきありありあるをいふなり。いふは。是事よりして。多聞
 道理よりとらうとく。行と偈といふなり。さきいふ事
 云。知ゆるの難也といふは。能くしるの難也といふ
 是世間也。多聞と人合我の意也。名とけり。いふは
 命ととらうとく。いふは。是事よりして。多聞
 といふは。是事よりして。多聞

と云ふ。是は事ある人。人々に心も剛なりや
 少くも。いふは。人々希ありとの。時され。世間
 ハ。無始より。是事より。若利とも。思ひ。いふは。是事
 と。いふは。いふは。是事より。命ととらうとく
 と。いふは。是事より。命ととらうとく
 道也。心たの。いふは。是事より。命ととらうとく
 て。仏法ハ。甚道た。いふは。是事より。命ととらうとく
 ひや。いふは。是事より。命ととらうとく
 今。いふは。是事より。命ととらうとく
 信。いふは。是事より。命ととらうとく
 佛の心。いふは。是事より。命ととらうとく

我身よやとて世回れ事を知りてにかなとてくろ
くこととてくろくは法の行ひかてくろ行かてくろ
事と推して学者とてくろ行かてくろ行かてくろ
理にまよひてくろの上人此道理とわさまてくろ
中く在家人よはけりてくろ妹は多聞とてくろ智を
ハ海よりてくろつてつめくろ如來の在世
初果此智者なり有りてくろ信心極くてくろ常に傍を
侍養してくろん吾法比丘とてくろ信づてくろあり
り多信衆とてくろあつ時遠國より客僧ある居士
とてくろく侍養せしめて他國の信を重んず事
意にまよひてくろ思ひてくろやとてくろ腹わさく比丘
て思はてくろ今日は侍養してくろてくろくを
山海の珠物粒とてくろまよひてくろたてくろの
波槽つるをたりとてくろ居士とてくろわさなひて世を
わさく由をてくろくに居士只今思合とてくろあり
わさなひてくろ法網とわさくたてくろ團母雞の
くろくありてくろ此雞少くなく音ハ鳥の音なり
有る其中とてくろ此雞の母鳥よとてくろくあり
仍形ハ母よ似たりとてくろ又よ思てくろ是と鳥雞と名付
とてくろ今此形とてくろまよひてくろ波門の山とてくろ思

とてくろく侍養せしめて他國の信を重んず事
意にまよひてくろ思ひてくろやとてくろ腹わさく比丘
て思はてくろ今日は侍養してくろてくろくを
山海の珠物粒とてくろまよひてくろたてくろの
波槽つるをたりとてくろ居士とてくろわさなひて世を
わさく由をてくろくに居士只今思合とてくろあり
わさなひてくろ法網とわさくたてくろ團母雞の
くろくありてくろ此雞少くなく音ハ鳥の音なり
有る其中とてくろ此雞の母鳥よとてくろくあり
仍形ハ母よ似たりとてくろ又よ思てくろ是と鳥雞と名付
とてくろ今此形とてくろまよひてくろ波門の山とてくろ思

我身よやとて世間行事を知らずにはかたしとて
 ことごとくは法をばいひかて行くかて身
 事と推して學者とていへばとてなりとて
 理にこそよかりとての上人此道理をわさまへとて
 中々在家人よけりりるも殊は多聞いとてなり智恵
 ハ海よりとてつめてつめたりて如来の在世
 にもよき通再びつと有り有り實多居士といふ僧の
 初果此智者をば有り有り信心ゆくとて常に傍を
 侍養してつとに吾法比丘といふ僧つと再のあり
 けり侍養とてつとの時遠國より客僧ある居士
 侍つとつとに吾法比丘といふ僧とてつとに

とてつとに侍養せしめて他國の僧を重んずる事
 意こそよきとて思ひてつとに腹ありさ此比丘は
 て悪口とてつとに今日れ侍養してつとに
 山海の珠物粒とてつとに居士とつとに世を
 侍養つとに居士とつとに居士とつとに世を
 わつとに曲とつとに居士とつとに思合とつとに
 わつとにひつとに法園とつとに何の園再難入
 ことつとにあつとに凡難とつとに音ハ鳥の音なり
 有とて其中とてつとに此難ハ母鳥とてはつとに
 仍形ハ母ハ母なりとつとに又ハ母ハ母と鳥難と若付
 とつとに今形とつとにつとに波門ハ母とつとに

ハ未何れを存せむと云ふ其の目も亦あつたるをく作らる
るく立つて神母なりけ侍しむなくばつてとある
道人の回答ハ生死れ一大事と云ふのく、
とあり。又陸の金燈と云ふ人と思ひく。直一、同直一答
先参、禅学道のと云ふ古人の佛法と云ひ。皆
は心なり青大珠和尚馬祖母系と云ふは、
も、大珠云仏はとりとらんたう之祖の云汝が自家
の冥冥と云ふ外にりりく何うせん。大珠云い
たりつ。先慧海が自家冥冥祖云汝が我は同の
先汝が冥冥なりと、大珠言下は道と云う。そ、
つは後、学人仏はと同事あると。自己の冥冥を

用ひ自己の家財を用ひしと云ふは、
生死の類概と云ふ。自己の本分と云う。むろり人
だ。先道人の風情なるに。此客傍生死乃大事と
云ふと云ふ。他事を端と云ふ。ゆふ。なりや
見と云入つてと云う。我國の学同名利のさ。廣
学と事なりし。真實の道と云う。如鏡の行と
儀と云う。中古よりと云ふ。ゆふ。法寺法
山の学。むと云ふ。名利と云う。解脫と期と云ふ。心
が。智恵の方便と云ふ。教門は眼と云う。学の切れつと
慈心傍教が。ひらんと云う。後名利の二字と云

くまればりしる。名利の心をりらる。誓言たりて。学
問のちうくいふりらる。道心をむく事と思ひら
る。若名利の心あり。孝同とて。いふ事なく。其
智を失わらる。智恵あり。道心あり。かゝる事。思
はる。心あり。事。法名。法。秋の釣とり。引く。後
道より入信と云ふ。法。まことなる。う。か。せ。め。く。名利の
ため。も。孝とて。一。法。皆。縁。と。なる。信。を。連
連。あ。る。べ。一。同。く。道。り。ち。う。く。冬。冬。り。や。を
肝。要。なり。と。一。

律子考し。孝與行相遠れ事

律子考し。孝與行相遠れ事
南朝の東名寺鎮西に観世若寺。下野に某
師寺。三の戒壇を立給ひ。毘尼正法をひろめ。如法
の受戒を初め行せり。かゝる時。うり候と云はれて。中
右より。兵名。り。受戒と云はる。法園より上り。集り
く。戒壇を去り。あ。り。く。心。な。り。ら。る。く。大。小。戒。相
も。と。ど。犯。制。の。行。儀。も。ま。ま。と。ま。ら。ず。も。う。に。贖。次。を
う。か。す。宜。く。信。養。と。う。く。心。傍。實。に。な。り。と。て。持。齋
持。律。の。人。跡。と。な。り。事。と。る。び。と。く。故。是。置。の。解
脱。上。人。如。法。の。律。儀。興。隆。の。心。と。し。ゆ。く。と。て。亦。の
器。量。れ。に。と。ま。り。ひ。く。持。齋。律。子。考。し。と。て。之。も。
時。の。う。り。ら。る。事。也。皆。正。體。な。り。と。事。と。て。ま。ら。ず。

りと。仰子の身中。中より。虫の如く。食むるがごとく
 と。祝ひつり。未代の法滅の学者。如法の行せびり
 名刺の價う。渡世の媒うして。聖教と邪妄の情
 引入也。仏知見の照と取と執し。見とりて計度し
 て。或は妄礙の見とわして。因果と檢査し。何の証
 得の思とありて。邪約と切し。いともあり。自と換ト
 他と換ト。仏法見くに魔賊し。やうやく満亡
 處。喉の流もあつり。悲へくわし。永嘉大師云。諸
 達して宣也。檢査因果。汚濁の招悪。執法の宣
 と云。一念不生。無染汗の心あり。たゞ情量と以て宣
 の道理と心得く。因果あり。果もあり。いふ。凡愚
 宣の大邪見也。近代聖教もあつり。道心も介く。觀
 行もあつり。まね。愚俗愚俗の中よけたらひわかれ
 らも可露と毒菜とをいれわかれ。實際理地
 ぬい不受一塵も。仏事門の中ぬい不疑一法と云。假
 名とやうりて佛法と談し。因果と信せりて。修行
 とたてん事。おぼる。佛祖のよしよき心と云。い
 事。結く。いふ。いふ。道理也

小兒之忠言のり

南都も或律傍世間となり。子息あつる。さうり
 中ぬい。いとい。わ。く。さ。う。り。子。又。歳。乃。時。知。う。り。上。人
 ぬ。三。人。の。房。よ。ゆ。さ。く。物。終。と。終。て。よ。け。子。ら。く。が

とわつし至るるを。かたは事なんわりとつげ知れ
れ。の有りまじまじとたづひ出さく。我のまの
まうと。よ海よりなふまに。子息の兒。徳は
母有るゆと。ひく。母の希ふて。もるなり。母を
う。ひく。肝心も。身よそ。いね。體之。け兒心。わつり。
て。だ。よ。の。つ。ひ。父。の。や。う。母。の。や。う。ひ。く。あ。ま。し。い。父
と。も。そ。て。れ。ど。人。の。お。徳。せ。たり。と思。ひ。て。や。い。ぬ。け
徒母。お。ま。り。も。う。も。う。く。思。う。さ。い。ひ。ひ。さ。う。そ。て
わ。き。ひ。お。ぬ。具。で。文。と。な。り。な。は

これのなりをうらむに。く。お。ま。り。も。う。ま。だ。う。

け兒をま。り。

ちか。の。な。り。を。の。り。も。う。ま。り。も。や。う。ひ。ど。

これ。り。も。う。と。不。ふ。も。る。ま。は。

か。の。因。子。害。し。たり。梵。網。の。文。も。あ。ひ。て。あ。ん。た。
一。切。れ。男。子。は。皆。我。父。一。切。の。女。人。は。皆。我。母。なり。と。徳。
れ。母。た。が。あ。心。な。う。べ。い。教。たり。な。は。な。る。う。べ。い。父
の。後。と。つ。き。く。ゆ。り。な。れ。と。あ。ん。

一。魯。割。し。母子。三。人。貪。り。で。世。と。わ。つ。る。者。有。り。
二。人。の。子。他。行。の。ひ。ま。に。隣。の。へ。を。い。ら。う。海。一。さ
事。を。あ。つ。ふ。子。ゆ。り。と。これ。事。と。あ。く。母。が。ら。ら。と。も
と。ぐ。ん。と。あ。隣。人。を。殺。害。し。ぬ。け。と。用。さ。く。さ。う。び。

一。わくわくおどおどばかり。下あで乱るハ刑セし
 醜母あて何々そへハ無とそり。災難天亡是より
 おもゆる。これ身とわひまてうろ人也。又色欲を愛
 一。酒精とけつ。酒肉とけり。おまう。蔵
 とく。一。家と羨麗はけり。民の悩と思はざは
 身と換一命と失ひ。えくた。事あり。せり
 然。未代ハ人の振舞音も。富貴の家ハを
 一。酒色ハ貪一。屋舎を。養性
 一。人民の。器量より。病患と。禄あり。家ゆ
 一。命と。余は。た。今。

一。天命と。た。今。生。の。身。の。
 一。花。一。期。の。経。た。る。物。志。也。
 一。夫。人。身。と。受。る。事。凡。上。の。土。の。
 一。優。曇。花。も。希。なる。も。
 一。因。果。の。道。理。を。一。り。
 一。母。菩。提。の。妙。道。
 一。佛。性。を。具。一。無。盡。此。妙。用。
 一。流。轉。生。死。乃。妄。業。を。一。つ。
 一。己。靈。の。萬。德。
 一。法。身。を。一。ひ。ま。て。一。事。一。い。は。し。

世に父母のあつた身とまうてせざるは今上一世を
身とまひゆる人也。公道修行のうらうらあかお離生
死のうらなまうてあつても。空く移廻れ苦果をまうてつよ
く流轉の業因をはらう。六趣れちゆるまうぐり。四生
のうらまうてあつても。無窮れ生死と受多劫の業苦
あつてまうてあつても。法仏の法身と同體ゆて教する子
とあまうてあつても。まうてあつても。多生れ身とわらわら
人あり心ありまうてあつても。人あり心ありまうてあつても
今生後生の身とゆらう。まうてあつても。用意するまうてあつても
なりけれ

梅尾の上人の物語の事

明恵上人は結縁の事。高野の道世上人ありまうてあ
つても。梅尾へ参りて。まうてあつても。入信ありゆ
風氣ありて見参せり。まうてあつても。まうてあつても
使者はまうてあつても。上人ありまうてあつても。まうてあつても
上人ありまうてあつても。此の明恵房が。過職ななり。まうてあつても
まうてあつても。参りてまうてあつても。まうてあつても。まうてあつても
老法師の参りて。まうてあつても。まうてあつても。まうてあつても
入信せり。風氣ありて。まうてあつても。まうてあつても。まうてあつても
也。大事あり。まうてあつても。まうてあつても。まうてあつても。まうてあつても
も。まうてあつても。まうてあつても。まうてあつても。まうてあつても
也。身のあるまうてあつても。まうてあつても。まうてあつても。まうてあつても
也。身のあるまうてあつても。まうてあつても。まうてあつても。まうてあつても

教と年久く凡ゆる母と一母の本假名よりくた
 わるゝとやうの六文字なり。在家のわらへる屋敷。出
 家のまへに様。道世のわらへる屋敷。おの道とまははるよ
 しひくわらへる屋敷。とへるとはさつり。さうらに未代を
 有つてやうとささくゆるあり。國王大臣は外護の
 知識として。仏法と守護し信敬して。釈尊に付属
 の事とわらへる。是王長のおつてさやう也
 とおれ在家。王の内意よきしへくは。法寺法山
 のお家の傍侶の家はうり。學子ハ殊なり。釈子の風
 をもはらへ戒儀よりりて。剃髮染衣のくつりとす
 べ。佛とす。愛とす。五衆の位とす。二三其
 外と專はとす。頭とす。是た欲とす。と夜と

際て心とす。戒の妻子と希し。戒ハ甲曹とす。ひ
 只三毒五欲より。おまゝありて。かほと五戒十善。け
 持つ事より傍た。び身再圓にそり。さよお家
 わらへる屋敷とす。とまへと。道世門とす。とに赤楊
 執著とす。世情妄念ありて。世間の人よりり
 く。佛法のさし。のわらへる屋敷。身心とまへと
 ぬ。とまへと。とまへと。作つた。まへと。佛のを
 一はとまへと。とまへと。一代の教門の肝要。お難
 解脫の道へ入人のわらへる屋敷。佛法の太玄
 うらなるとわらへる。上人をよとす。とまへと。これ神

心をむりたり。さき今日も夕方より。通夜を結
 わり。以自ひあり。ひよわたり。鐘の音
 と。さきいありの鐘を。同結よ。日没と。鐘の音
 こいり。心を結。作らふ。入法ひ。たは
 時の心地なり。佛の経法の。六十劫と。時の衆
 本日と思ひ。らんも。思ふ。我は在世。あり。ひ
 仏の経法と。聴せ。せんも。か。く。思ひ。あり。て。あ
 く。ゆり。り。り。と。あ。ん。野の道世者。き。は。さ。え
 て。物。結。り。ゆ。り。或。道世の長。齋。人。河。内。國
 へ。傳。用。せ。ゆ。七。里。の。道。と。冬。の。日。決。心。氣。ま。た。も
 ぬ。く。心。を。道。の。馬。の。心。

ぬ。く。心。を。道。の。馬。の。心。
 今。日。の。日。う。り。と。わ。ん。と。つ。よ。檀。那。ゆ。き
 年。時。と。そ。作。務。ん。そ。く。移。り。の。珍。物。と。り。て。齋。心。や
 め。そ。と。と。本。より。食。者。も。ま。は。ひ。く。く。わ。こ
 なる。食。後。の。菓子。ま。ま。ぐ。至。極。せ。ら。ひ。く。楊。枝。と。は
 くと。鐘。の。丁。と。ま。ま。る。是。の。何。の。鐘。と。や。因。ら。日。没
 と。云。日。没。の。鐘。と。ま。ま。る。事。の。心。を。食。に。ま。ま。る。心。
 彼。上。人。の。物。結。み。わ。ひ。ま。ま。る。心。を。食。に。ま。ま。る。心。
 ゆ。き。古。と。改。換。う。り。今。の。世。代。見。よ。興。廢。ゆ。り。り
 たり。古。凡。道。世。の。人。の。佛。心。と。そ。め。く。世。間。を。あ
 事。と。ま。ま。る。由。代。の。世。間。の。名。利。と。ま。ま。る。心。

也。無常果とく。無念の修行は、是も有義なり。
常任れ理よふべし。故に臨終に妄業よむる事
て自在の妙樂と得んと思ふ。行住坐卧も妄
念とゆるさべし。中心とわささるべし。徳山云。無念
於事。無事。於心。虚而靈。空而妙。毫釐繫念。三
途業因。弊瞽情生。萬劫羈鎖。云。是行人の因
心。修觀の龜鏡也。善心無事あり。是身れあつて
執とく。較念念悟生と云。心とく。時有り。
け故に孔子の語。四海皆天。下れ人とれ。一と云。此は
凡入方便也。大唐の祖師の教誡。本朝の上人の語。皆
の

人。身とく。思出なり。古徳の言。先達の誡
め。鐵に熏。神は深。骨はこ。神は妙。一。此
故に古人云。神丹九轉。點鐵成金。至理一言。轉凡成聖。
と云。又。思入と云。思入んや。心は妙。一。東嶽
寺の長老。聖一和尚。法門談議の座のまゝ。その
凡のそ。時。聴。心。肝。は。深。た。く。お。わ
の。大。細。織。の。そ。の。ひ。と。お。わ
と。く。意。の。心。肝。は。深。た。く。お。わ
の。根。ら。く。晚。歳。は。あ。ひ。く。久。く。存。下。母。阿。ろ
と。あ。つ。も。は。の。大。意。結。く。教。訓。と。義
の。東。下。向。の。時。海。道。の。一。宿。乃。雜。事。の。や

かのそゆるりしに。あつはれ人の風情よひみくは
 と。色代まぬるや。身をゆるりぬ。何しにかかふるも
 ちのそゆるりつるあつはれぬる也。初心の菩薩の事。しり
 て紛動とれぬ。道に芽を破敗とてし。そりせとて。別
 の語あり。此語は心肝し。身の底にそり。まはるり。
 此の玄義の中みゆるり。観行初心の初者。観心と
 り。ゆるり。事れ六度修め。身して世間の
 事。心みく。の。身。の。や。あ。ま。び。あ。る。を。体。息。し。用
 観と専と。し。り。事。に。し。て。観。心。の。芽。破。敗
 と。し。の。事。を。し。り。修。め。凡。そ。後。法。の。あ。つ。ひ。分。め。し
 教導有る。法の體は。迷。悟。惑。智。諸。教。の。

廢除は不生不滅。至理の言。結道新。ら。是。皆。法。の。體
 と。く。け。所。と。達。し。て。事。理。を。身。あ。ら。う。義。法。と。つ。つ
 ひ。得。て。別。の。修。め。あ。ら。う。し。ん。修。め。は。頓。悟。頓。修
 乃。人。の。ま。ま。也。なり。龍。女。が。菩。提。心。と。れ。し。て。や。ぐ。そ
 成。佛。し。無。垢。の。成。道。と。唱。へ。し。が。て。と。く。と。く。也。なり。
 頓。悟。漸。修。の。後。の。事。あり。故。し。經。に。云。理。の。則。頓
 ぬ。さ。ら。う。乘。悟。し。あ。ら。う。消。し。事。の。頓。は。除。く
 は。あ。ら。う。以。身。に。因。り。盡。し。と。云。と。く。と。く。也。法。を
 頓。に。さ。ら。う。と。之。ぞ。也。後。情。の。け。さ。が。し。風。の。や。む。や
 之。と。も。彼。の。け。さ。ら。う。日。の。つ。と。之。ぞ。也。我。の。身。の。ゆ
 とも。境。縁。よ。ひ。く。通。て。萬。法。を。轉。ら。う。力。た。ら。う。時。の。

持律坐禪爲の。細伏れ行と修ゆ。是と機と云。
 法體よあつゝ。只機情の上れ著相とやう極
 のぞくなり。ば分別なる。佛知見の照と云の
 けの體と。機情とりて計度分別して不生也と
 云ひく。無礙の見をわく。空無の解と云く。
 無善無惡無凡無聖と。道理をうりて心得て。妄業
 と云ひ。おまゝにばけり。修もあらず。
 善行と云ひ。あつゝ。修もあらず。修もあらず。
 再取捨。分別の上無惡業と。いづく平足れ一
 と云り。善相れ妙體み合り。機法の分別も也。
 此善知識の力なり。一結く用意して。大業れ修
 行のいひづく事。此生にあり。彼和尚の慈訓心の
 底より。一と思ひ。書は善法所教門
 再符合して。あやむらむ。法門なり。

沙石集卷第三下終

神護寺

迎接院

沙石三

下

カ

永仁第三之曆未紀孟夏初九日於西山之大
原野書寫之畢 片山貪士道慧春秋

四十六

軌元第二曆未紀季春之候此書道證上人奉
渡畢

道慧

沙石集卷第四 上

目錄

無言上人此事

法石集卷第四 上

云言上人の事

あり山寺に四人の上人ありたり。ま如の離言と
 觀し。淨名に杜^いは代^か学^{がく}をん^んを^を行^りひ^ひを^をん
 ありとびまびて。道場と莊嚴^{しやうげん}。義^ぎ縁^{えん}と座^ざの
 三業とまづりて。道場よ入^い四人^{にん}を^をあ^あく^く人^{にん}七^{しち}日^{にち}を
 無言とら^らし^しび^び。兼仕一人^{ひと}を^をあ^あ入^いる^るが^がう^うよ^よ更^{さら}と
 りあ^あひ^ひく^く。さ^さり^りび^びら^らく^くん^んと^とま^まら^らく^くと^とま^まら^らく^く。下
 座^ざの^の傍^{たがひ}兼^{かね}仕^し次^{つぎ}く^くさ^さあ^あひ^ひく^くや^やま^まな^なく^くび^びく^くを
 乃^{すなは}傍^{たがひ}無^な云^い道^{だう}場^{じやう}よ^よ初^{はつ}く^く保^ほひ^ひく^くび^びと^と云^い。第二^{だいに}座^ざを
 傍^{たがひ}二人^{にん}に^に初^{はつ}く^くを^をま^ます^す。あ^あま^まり^りよ^よ心^{しん}地^ぢわ^わく^くま^まて

物より作りたる中と云。上たれ老僧。ふゆわく
また面くおつりま。あまきく。わだわ
く。あはしては。わづりぞ。わが。あまきく。あまきく。
う。あまきく。わが。あまきく。わが。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。

ありつらうり。楽天れ。人よ。あまきく。あまきく。
癡章。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。
あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。あまきく。

空待りる。坐禅修行あるに。道かへにせん人候
たかそうし。又ある下は。師海とわひまうらふ。
阿ふひもあれまうに。衣れく神とまうそくそくの
とらり。是れくも三寶と。代養。父母いと者
養。悲田よと施。行し心あく。感激しほし
わし。抱れあうとて。吾事と行せぬ。抱らるる
母いわび。只心ざり。められた也。或入道餅とこのじ。響
仲なり。加母結。して。餅とやとらる。あま
あく。始。小香に。けり。くと云か。よび。才よまうく。
をうく。と。鞠。んと。え。様。よとらる。そ。い。ま。う。

佛の喜ぶよ。歡喜れぬわらん。人得果う。いひ
か。う。らん。と。道。か。の。中。か。ま。ま。道。な。れ。ぞ。と。人。毎。り
わ。ひ。と。心。事。わ。申。せ。ぬ。く。物。を。せ。ぬ。の。い。或。之
昼。寝。と。あ。り。或。い。つ。ろ。う。な。う。と。花。と。南。無。れ。或
寺。の。傍。粥。乃。粥。と。くり。び。一。目。高。ま。で。眠。は。い。
粥。ハ。め。え。ぬ。と。人。と。ら。り。も。う。り。を。寝。た。ら。い。ん。ん。ら。
味。よ。ぬ。と。言。ら。り。と。ま。わ。り。は。喜。禪。悦。の
食。と。わ。せ。ぬ。仏。道。を。う。か。く。つ。と。或。之。詩。
秋。音。結。み。す。と。或。傳。辨。田。候。と。この。を。欲。り。ぬ

くろ。酒家しよかんをわひわくろ人ひとら。も。財宝ざいほうの費つひ。
身命みんめいのわろひわ病やまひのわろり。禍わざはひれれももらん事こととて
とろ。世間よこのししこのじこ。なるなる。佛道ぶつだうは
入因いん縁えんも。人ひとよりよりくくももをを樂らく。信解しんげとろは門かど
くくなりなりけけ友ともに。佛ぶつ万機ばんきをりをりくくはは方便ほうべんととはは悦えつ
ららててハハ萬まん四し千せんれれはは門かどととくくははつつりり。ああははををををしし。
基もとととののじこどどくく。佛法ぶつぽふととをを樂らく。修しゆりりせせハハ道だうをを
ささらんらんももヤヤひひくくれれべべ。世間よこののくくハハ善ぜんははりり
ななままくくどどつつくくくくをを。任運にんうんののややとと。信しんはは
いいろろめめててなりなりひひままととれれゆゆにに。信しんととつつくく切きとと入い
ゆるゆるわわくく。希まれにに。只ただ偏執へんしやくのの心こころありり也なり。

薰修くわんしゆの切きりりとと。我われ相あひつつくくてて。嫉妬しやくとのの心こころをを
くくくくくくくくくく。是こゝろ也なり。偏執へんしやくととややめめてて。一ひと
ももくくとと専せんめめとと。一ひと。我有われ縁えんののははととのの執しやく也なり。
他たれれ有あ縁えんはは法ぽふととくく。事こと。又またととろろくくなりりととくく也なり。
通とはは三さん論ろんのの心こころ通ととと。中ちゆうへへ上じやう人にん。ああつつ係けいはは結むすりり也なり。
云いくく。宗しゆととくく。家け宗しゆととくく。執しやくととくくとと偏執へんしやくととくく。
也なり。我われ三さん篇ぺん宗しゆくくりり也なり。其その偏執へんしやくかかくくととくく。けけ云いんん
をを。偏執へんしやく也なり。餘あま宗しゆハハ偏執へんしやく有あ劣りやくなりり。我われ宗しゆハハ偏執へんしやくなな
しし。勝かちたりりききんん。乃すなはちち偏執へんしやく也なり。無言むげん道場だうだう也なり。拘こりり
ややううくくびびととくくははががくく。大だいくくハハ宗しゆととくく。宗しゆ旨しめとと同どう
也なり。後ごはは通とりり下げににわわくく。是こゝろをを記しくく。三さん篇ぺん乃すなはちち師し也なり。

ハ是佛はなり。つり。又また念ねんをもくく行ぎやうはは心しんのしく
 明鏡めいけう之のをもても。只ただ本ほん分ぶんよりもかかるるべべしし。妄念まうねんよりも目めを
 ううををささるるをを。ああつつるる本ほん心しん明めいくくなりなり。徳とく金こん山さんよりもるるをを。
 薪しん火かととままひひびびびび。ゆゆりり念ねんをを行ぎやうすす。滅めつせんせんと
 ももりり。妄まう言げん道だう場じやう。物もの。ややうう作さくははととひひふふごごとと。
 任にん意ぎ想しやう境けい不ふ知ち了りやう知ちととひひふふるる。萬まん境けいよりも向むかひひ。現げん量りやう其その
 分ぶん別べつああららばば。道だう下げ相しやう在ざいととへへ。六ろく学がく不ふ思し遷せんてて。回くわい正しやう
 見けんととつつりり。ゆゆりり知ち見けんをを行ぎやうすす。比ひ量りやうよりもととりりてて。別べつ
 計けい度たう。能のう取しゆ捨しやひひををささりりふふららりり。よよかかりりとと。
 云うんががごごとと。於おここるる知ち不ふ辨べん真しん實じつととひひふふるる。別べつ
 任にん心しん體たいととひひふふるる。所しよ任にんはは本ほん分ぶんよりもししくく。知ちたたりりとと。
 くくととああららばば。一いつ念ねん相しやう在ざい。其その知ち現げんああららばば。りりとと。
 分ぶん別べつのの下げをを執しやく。真しん實じつ此こゝ相しやうととひひふふるる。是こゝをを執しやく也なり。
 与よ座ざ乃の任にんがが。只ただ妄まう念ねんをを行ぎやうすす。ああららばば。一いつ念ねん相しやう在ざい。
 妄まう念ねんありりとと思しひひくく。法ほふ師しののりりとと。物ものハハりりとと。
 云うんががごごとと。けけ心しん。法ほふ門もん修しゆ行ぎやう乃の形ぎやう。要えい学がく者しや乃の鏡けい也なり。
 乃のりりとと。用よう念ねんをを行ぎやうすす。作さくはは相しやう三さん論ろんハハ中ちゆう天てんよりも始はじめなりなり。
 てて。護ご法ほふ。法ほふ辨べん唯い識しやく唯い境けい乃のああららばば。一いつ念ねん相しやう在ざい。
 門もん後ご宗しゆうととひひふふるる。事じとと。天てん台たい釈しやくととひひふふるる。天てん親しん龍りゆう樹じゆをを。
 内ない鑒けん冷れい然ぜんをを行ぎやうすす。此こゝ時とき各かく據きよ一いつ門もんととひひふふるる。法ほふ相しやう乃の
 祖そ師し天てん親しん三さん論ろん乃の祖そ師し法ほふ師し法ほふ師し乃の内ない鏡けんハハりり。真しん如じゆのの一いつ理り

任にん心しん體たいととひひふふるる。所しよ任にんはは本ほん分ぶんよりもししくく。知ちたたりりとと。
 くくととああららばば。一いつ念ねん相しやう在ざい。其その知ち現げんああららばば。りりとと。
 分ぶん別べつのの下げをを執しやく。真しん實じつ此こゝ相しやうととひひふふるる。是こゝをを執しやく也なり。
 与よ座ざ乃の任にんがが。只ただ妄まう念ねんをを行ぎやうすす。ああららばば。一いつ念ねん相しやう在ざい。
 妄まう念ねんありりとと思しひひくく。法ほふ師しののりりとと。物ものハハりりとと。
 云うんががごごとと。けけ心しん。法ほふ門もん修しゆ行ぎやう乃の形ぎやう。要えい学がく者しや乃の鏡けい也なり。
 乃のりりとと。用よう念ねんをを行ぎやうすす。作さくはは相しやう三さん論ろんハハ中ちゆう天てんよりも始はじめなりなり。
 てて。護ご法ほふ。法ほふ辨べん唯い識しやく唯い境けい乃のああららばば。一いつ念ねん相しやう在ざい。
 門もん後ご宗しゆうととひひふふるる。事じとと。天てん台たい釈しやくととひひふふるる。天てん親しん龍りゆう樹じゆをを。
 内ない鑒けん冷れい然ぜんをを行ぎやうすす。此こゝ時とき各かく據きよ一いつ門もんととひひふふるる。法ほふ相しやう乃の
 祖そ師し天てん親しん三さん論ろん乃の祖そ師し法ほふ師し法ほふ師し乃の内ない鏡けんハハりり。真しん如じゆのの一いつ理り

と通基し。不用の時機を引入らるる方便或は唯識
 無境とのひ或は唯境を識とのひ。門室門時と云ふ
 ぐひあまうまらるる准あり。御るる事字。此は乃源底
 まらるる也。是れ偏執の事と云ふ。中を釈し法
 あり。凡仏法乃大綱ハ法體不方義門得別と云ふ。
 一心此妙體ハ法教不二也。義門乃差別ハ法宗と云ふ。
 多しなり。法相中も安立諦ハ時ハ義門と云ふ。深
 とを諦と。非安立諦。慶詮後旨ハ時ハ義門臨あり。
 三篇乃師も諸大系經顯乃無二と云ふ。天台此内
 鑒冷此此釈也。そとそと云ふ。天台乃師も。色
 即是空也。空即色也。是即色也。是即色也。

後法此宗成り。其のゆゑして云ふ。一而云
 義門の夏夏乃時ハ花嚴ハ法教と云ふ。法相三篇と
 ハ始教終教と云ふ。天台ハ四教と云ふ。法相と別
 教も根す。法相ハ三系方便三系真實と云ふ。三篇の
 師ハ法相ハ三を執し。天台ハ二を執し。我ハ此三也。一と云
 ふ。餘宗と云ふ。法相は法相と云ふ。方便也。實証ハ
 正と陽とあり。法宗の編ハ。他宗の劣なり。正と
 云ふ。我家乃法相と云ふ。義と云ふ。法相と云ふ。
 わるはり。正と云ふ。人乃より云ふ。あらうと云ふ。
 一と云ふ。其の縁の機ハ信心と云ふ。せん。あは。法相
 りと云ふ。求那跋摩三系ハ云。法相各異。編

かなきも。修りて理無二也。偏執はるる。有是非。
 違者。違諍云。まことに偏執是非。佛經の云
 也。叶へる。又義機の入路と相違ふ。は相三
 論の義門といく。心外も境あり。唯識の云
 境の如。心あり。唯境といふ。は心外。花嚴論の云
 如の外。は智の如。と鏡の如。智の外。の如。智と鏡
 との如。也。如境智を公た。三篇の唯境といひ。は
 相の唯識といふ。去。は心外。の如。六百の比丘。如
 と鏡。一事。各別。か。是。在。佛。於。正。鏡。と。ゆ。う。は。は
 四箇の大業。は。性。と。疾。せん。年。は。心。を。心。ん。實
 然。然。の。一。か。り。の。心。也。方。便。の。流。の。異。か。り。と

今。は。諸。宗。根。才。の。師。皆。い。言。下。の。道
 世の尼公二人。大律師と云は。道は遠なり。車の輪の
 一あるを。て。一人。い。く。これ。車。の。大。業。諍。謗。の。の。に
 して。片。輪。の。あり。といふ。今。一人。が。い。く。大。業。諍。謗。防
 ぬ。の。片。輪。の。あり。といふ。又。洛。陽。に。辯。阿。と。い。ふ。相
 人。あり。たり。か。と。是。の。片。を。い。ひ。て。う。を。問。ふ。は。か
 才。み。よ。あ。ひ。多。偏。こ。と。也。世。ら。に。辯。阿。と。か。と。是
 乃。う。う。さ。さ。そ。人。の。ま。ま。な。り。と。い。ふ。を。思。ひ。よ
 里。う。う。び。あ。や。ま。そ。片。方。の。西。足。と。い。か。う。く。む。と
 とも。い。て。人。が。い。ふ。と。い。ふ。か。く。れ。と。せ。ら
 の。し。つ。り。と。御。と。な。さ。と。道。理。た。つ。た。有。無。の

法苑珠林 上

洞ほらのほらももとと車くるまのの一ひと輪りんのの長なが短たかのの一ひと
唯識唯境義門異ことは法體はふたいのの通と同どうのの一ひと
法故はふゆ護法ごほふ法辨はふへん門徒相共もんたふあひのの答こたあるあるなりなり
傳つた辨へん云い母ははがが唯識ゑいしきととのの心こころのの一ひと
境きやうとと云い實まことのの唯識ゑいしきありありとと云い唯境ゑいきやうありありとと云い
殊こと勅しやくれれ成なり佛ぶつのの時ときのの證しやう明めいなりなりとと決きとと一ひと
時ときのの菩薩ぼさつのの用もちひひとと云い若し中ちゆうにに入いてて若しとと云い
入い定ぢやうとと云いややとと云い是こゝにに法性はふしやうのの中ちゆうにに寂照じやくしやうのの境きやうありあり
寂じやくのの境きやう也なり如ごとくく照しやうのの智ち也なり明鏡めいけいのの銅どうとと明めいととのの一ひと
水みづのの照しやうとと銅どうのの一ひととと云い銅どうとと明めいととのの一ひと
唯識無境のの一ひと銅どうとと明めいととのの一ひと唯境無識

文證ぶんしやう明めいなりなりとと云い如ごとくくのの外がいにに智ちありありとと云い三編さんぺんのの法はふ門もん智ち
のの外がいにに如ごとくくはは相あひのの法はふ門もん也なり法相はふさうもも空くう為なるなり故ゆゑにに
於お真性ましんじやうとと云い空くうとと云いのの一ひととと云い此こゝにに有あるなりとと云い一ひと心しん妙理めうり有あるなり
實まことのの一ひと心しん法界はふはふがい非ひ有あるなり非ひ空くう也なり有あるなり執しやくとと云いんんとと云い
空くうとと云いのの一ひと心しん妙理めうり有あるなりとと云い一ひと心しん妙理めうり有あるなり
とと云い之こゝにに有あるなりとと云い空くうとと云いのの一ひと心しん妙理めうり有あるなり
路ぢとと云い之こゝにに有あるなりとと云い義理ぎりなるなりとと云い法宗はふしゆうのの義ぎ別べつにに
有あるなりとと云い之こゝにに有あるなりとと云い又また戒定けいちやう惠ゑのの三さん義ぎのの一ひと
體たいハハ二になりなり京きやう北きたのの興きやう善ぜんのの一ひと惟ただ寬くわん禪ぜん師しハハ馬ば祖そ

乃弟子之白居易回てつとく。そくに禪師とて。何ぞ法とて。同乃意ハ禪を不立文字ノ宗也。心よまきく言よあ〜び。法ハ教師ノ談と取可とわらる。禪師答て云。無上菩提と。身よあつと。志しつと。戒とて。心よ執とて。心よ行とて。禪也。つと。應用ハ三途とて。其體ハ不二也。たろハ江河淮漢の在取よ。名とて。心事とて。心とて。水體ハ不二なれ。戒即法。法禪とて。何ぞ。何ぞ。初とて。生とて。つと。圭峯ハ宗密禪師も。禪ハ心とて。意教ハ仏の言。法ハ心口相在とて。云て。三宗三教の如合ハ。宗録卷第三十四卷。宗分ハ下有也。

又圭峯の禪源諸詮の中ハ有之。上卷の終也。道をこれとて。戒定慧ハ三学。方便の位ハ異なれとて。真實の體と稱とて。金一也。戒罪人の三とて。犯不犯の心とて。世に戒也。たろハ持とて。漏ハ果報とて。只定と發とて。方便也。體ハ教界の下業あり。げ也。南山律師釈。一にまじく。執とて。則障道是世善法。違則障道不立三途云。持とて。於一道と際。戒相と執と。取也。犯とて。又つと。道とて。三途よ入の故。是則世間の戒也。故。法ハ淨よ。戒相如。虚宣持と心者と為。迷倒云。

法石四 上

上

大不淨よハ以不獲者滿す淨戒波羅蜜と犯不犯
の相不可得なり。ゆへに性
梵網經よハ性
法淨の體と金剛寶戒とつり天台祖師は意を
得て有部の戒體ハ多分克體也。性無作假を
釈し終り是ハ色香中道ハ意法住持の理り
かゝる。わと世の戒とつり多別と生るるを犯戒
ぞ。故に文殊師利の意ハ世の戒也。是地土戒を
取放に分別と波羅夷と制と戒ハ位より行制
細なり。緩の教と中て。是男。是女の多別とあり。兼
三八波羅夷とつり。真実ハ無相の妙體自性の尸
有り。定も世なる漏の定ハ慮と息の心とこゝろ

智恵と生るる方便より。風中ハ燈の光りなり。兼
こゝろ。教心の智恵ハ理とそゝり。又只定り
し。智なり。色サ。色ハ天ノ生ハ。つり。果
報つさ。わ。ハ下界。母ハ。真実ハ定。首楞嚴
定より。三昧より。自性禪とつり。教定り。名
孫那とつり。定惠相應の名あり。動とて。心歸
と。心ハ。つり。動とて。つり。つり。大定ハ出
入あり。事理あり。動靜一致あり。性といふ
も。是中道ノ妙定あり。智恵も方便ノ位。揀擇
筭量し。思想觀察す。世間ノ看也。断惑力あり。

大不淨よハ以不獲。不獲す。淨戒波羅蜜と犯不犯の相不可得なり。ゆへに。性林網淨。性法淨の體と。金剛寶戒と。天台の祖師。性得て有部の戒體ハ多分克體。性無作假を。釈し。是ハ色香中道ハ意法。任は任の。戒なり。わと。世の戒と。分別と。生。犯戒。ぞ。故。文殊の意ハ。世の戒也。是地。戒。分別と。波羅夷と。制と。戒ハ位あり。制細なり。緩の。是男。女の。分別と。三ハ波羅夷と。真実。無相の妙體。自性の。真言。相の。

有り。定。世。漏の定。慮と息の心と。智恵と生むる方便。風中の煙の。教心の智恵ハ。又。智なり。色。天。生。果。報つ。下界。真実。定。首楞嚴。定。三昧。自性禪。那。定。惠相應の名あり。動と。と。動。大。入。事。理。一。性。も。中。道。の。妙。定。あり。智。恵。も。方。便。の。位。揀。擇。等。量。一。思。想。觀。察。す。世。間。乃。智。也。新。感。力。あり。

正智ありと。正智ハ必無念を分別也。けしよ。大智
 無分別なり。般若無知なり。無縁の智と
 以て。無相の境と縁するゆ也。觀照般若眞實の
 智恵なり。緣起ハ一心の上の三の義。三学ハ法門あり。
 一心不動。一念不生。これ自然。三学六度ハ法門
 と具足して。わづらふ。は花三昧經云。宣心不動
 具足六波羅蜜云。戒。無相。清淨の事。慳貪
 犯戒。瞋恚。懈怠。教。无愚癡。相迹なり。け六蔽を
 戒也。三学六度の名と立たり。緣起ハ戒定恵の
 源。一介の法理と違ふ。方便の義門とて異なり。と
 是則。法ハ大相と云ぬ。と

か。也。の。禪師の答。法。宗のし。を。違。ゆる。や
 上。古。れ。之。違。ハ。妙。の。を。違。ゆる。事。ハ。未。代。ハ
 顯。密。傳。教。聖。道。淨。土。是。非。諍。論。世。間。ハ。妙。く。す
 の。像。法。決。疑。經。云。像。法。の。時。ハ。家。ハ。是。律。師。禪。師。は。師
 と云て。三学た。ひ。め。す。一。里。て。地。獄。入。事。矣。夫。村
 ぐ。と。く。あ。ら。ん。と。し。り。未。法。ハ。外。て。ひ。く。さ。り。也
 如。來。れ。金。言。あり。た。ふ。し。く。り。さ。り。あ。や。百。喻
 經。云。二人の師。二人の弟子。とて。二乃是とあそ。時よ
 ち。さ。う。ひ。く。か。そ。き。れ。大。小。れ。弟。子。中。何。し。て。た
 う。ひ。め。の。し。ら。わ。さ。ふ。と。し。り。の。師。の。是。と。打。た。像。是
 ハ。未。代。ハ。大。衆。ハ。学。者。也。小。衆。と。き。し。ひ。小。衆。ハ。学。者。也

父の業を承けて。大聖の教法と。二途をもにう
 たり。つとむたふ。由代れ。孝者。年よとく。ひ偏執
 家相。ゆくり。し。智法の。威。ん。し。を。思。計。し
 ひ。し。く。も。戒律の。親子の。威。儀。毗尼の。喜
 命あり。正法と興隆も。軌則。これ。律苑の中より。あ
 たり。法宗の。妙解の。後。妙行と。立。い。か。り。ひ。律
 依。より。勝。鬘。智。論の。意。より。心。に。毗尼の。大。業の
 孝と。より。又。涅槃の。枝。律。顯。常。法。華の。安。樂。行。品
 專。戒。律の。門。より。大。業の。修行と。い。か。り。是。開。會
 の。意。決。了。れ。後。也。天台の。心。觀の。修。り。律。依。を。方便
 と。し。て。南。齊。釈。迦。の。戒。を。大。小。家。受。者。心。明
 と。し。て。又。西。天。の。付。法。苑の。祖。師。三。學。を。い。ひ。り。出
 通。す。此。業。を。名。靈。山。と。し。て。拈。花。微。咲。の。時。と。い
 正。法。眼。藏。涅槃。妙。心。と。し。て。經。律。り。益。か。く。と
 う。の。い。ひ。も。不。可。結。集。す。三。藏の。法。門。と。結。集。し
 て。遐。代。の。傳。ふ。教。事。根。本。此。業。に。初。祖。なり。如。來。入
 滅の。と。き。荼。毘。の。人。中。天。上。の。福。と。結。集。り。ん。物。に。と。き
 と。ゆ。り。あ。り。我。の。三。藏の。教。法。と。結。集。し。て。仏。の
 悲。德。と。報。と。し。て。あ。く。の。捷。雅。と。お。て。一。閻
 浮。提。の。有。智。高。德。の。羅。漢。一。千。人。と。り。畢。波。羅。窟
 あり。律の。優。波。梨。誦。し。經の。阿。難。誦。し。結。集。を
 執。事。專。つ。て。此。業。上。座。と。し。て。三。藏。と。行。と。智。鑑

父の業を承けて。大聖の教法と。二途をもにう
 たり。つとむたふ。由代れ。孝者。年よとく。ひ偏執
 家相。ゆくり。し。智法の。威。ん。し。を。思。計。し
 ひ。し。く。も。戒律の。親子の。威。儀。毗尼の。喜
 命あり。正法と興隆も。軌則。これ。律苑の中より。あ
 たり。法宗の。妙解の。後。妙行と。立。い。か。り。ひ。律
 依。より。勝。鬘。智。論の。意。より。心。に。毗尼の。大。業の
 孝と。より。又。涅槃の。枝。律。顯。常。法。華の。安。樂。行。品
 專。戒。律の。門。より。大。業の。修行と。い。か。り。是。開。會
 の。意。決。了。れ。後。也。天台の。心。觀の。修。り。律。依。を。方便
 と。し。て。南。齊。釈。迦。の。戒。を。大。小。家。受。者。心。明
 と。し。て。又。西。天。の。付。法。苑の。祖。師。三。學。を。い。ひ。り。出
 通。す。此。業。を。名。靈。山。と。し。て。拈。花。微。咲。の。時。と。い
 正。法。眼。藏。涅槃。妙。心。と。し。て。經。律。り。益。か。く。と
 う。の。い。ひ。も。不。可。結。集。す。三。藏の。法。門。と。結。集。し
 て。遐。代。の。傳。ふ。教。事。根。本。此。業。に。初。祖。なり。如。來。入
 滅の。と。き。荼。毘。の。人。中。天。上。の。福。と。結。集。り。ん。物。に。と。き
 と。ゆ。り。あ。り。我。の。三。藏の。教。法。と。結。集。し。て。仏。の
 悲。德。と。報。と。し。て。あ。く。の。捷。雅。と。お。て。一。閻
 浮。提。の。有。智。高。德。の。羅。漢。一。千。人。と。り。畢。波。羅。窟
 あり。律の。優。波。梨。誦。し。經の。阿。難。誦。し。結。集。を
 執。事。專。つ。て。此。業。上。座。と。し。て。三。藏。と。行。と。智。鑑

持律い。もろれろろろ。釈一法つり。何まぐら母。餘
宗の学者と非まぐら。宗の学者の如法ある
事とらふなり。又禪門の学者。教とる。律を
もろろ人とい。向一控擗。抑さし。行なる。
もろに律傍の中。か母の律儀とる。小
宗の執とるに似れ。大衆の行門と非まぐら。で
有縁の宗く。と行もろ事あり。かへて小衆の宗と
と思ふ。もろ又もろ。海と。執則除道の行も
あへ。善惡の根性。深深れ根のつもろ宗も
相まぐら。むと。一宗の学者と非まぐら。牛羊
の眼とて。他人と評量もろ。やなり。もろ心なり。

く。もろ。大方智淨。云。自法愛樂故。毀此。他
人法。雖持淨戒。不免墮惡道。云。凡佛法乃大綱。を
法。惡莫作。衆善奉行。自淨其意。是諸佛教也。
もろ。大小衆の学者。もろにむくべ。七の通戒
なり。なと。あへて異義をなせん。法惡莫作。戒
衆善奉行。自淨其意。惡と釈せり。然れど。
戒ハ賊と。人。定ハ賊と。む。ハ賊と。殺。三学
齊修す。もろ。時代。もろ。機根。もろ。一。もろ。
宿後。もろ。白。意樂。もろ。もろ。戒。戒律の
戒ハ心也と。ゆりんと。た。ひ。もろ。戒律の

戒律

仍相と學をんときれん心地れ修りようく。禪門
乃工夫と專よせんよひもは。昆丘れ割門めらつた事。
末代と想し。若棧と恨む。なまの心あらん人。
如來の正法端と鑄し。無るれ業とまのうんや。むく
けしむべし。無言の上人が相ごうり。一旦なりき
もた。そのちがなり。南世の鑄法その罪大なるものね。
聖道淨土れせひ。又古にうりなり。移んぬの移しや。
ま云心觀等と雜わとく。ま云法花と品通と
於人の念仏と布し。思り。又如來れ方便と失
し。祖師れ教誡よそむり。淨土門の人餘行と不可
導和尙れ艘舟瀆の序よ。釈迦い。後父母也。ああが
ため。後々の方便れ門とそと。教し。りて
仍也。八門の佛を見。後を。生むべし。人の言と
仍ぞんをそい。まをたをり。さうりあんとまをそ。
ら被とらう。え何れ意を。ゆるやあ。同し。
仏とみく師と。法とみく母と。生養共よ同く。
情親おに何れ。佛のを縁れ行とそ。自らを
縁の法とみく。然れ法の法眼と磨ら。法眼とそり
滅せ。菩提の道とみく。淨土れ門。何ぞ
能入事とそん。生盲業よ。海をく。深坑より
れらん。この貪嗔れ決と。ひま。自と換ド。

他と換ド。かろく無のれ海よきづきて。およあまた
とて。餘行餘宗とて。行事。遍く。いふ。わが。じ。
法花と弘通とて。人の中。又念ん。とて。行事。
是又天台大師の内意よきむらり。法花の修行。三
山觀れ四種三昧よ出ん。常行三昧。九十日。口より。法陀
の。名号とて。多し。意。法陀の。心と觀ん。或は。いふ。と
おへて。後よ念ト。或は。念。て。後よ。あ。ある。ひ
ハ唱念共ん。と。ふ。あ。お。念。これ。阿。も。在
と。釈。り。あ。ひ。與。稱。十。方。佛。功。徳。正。等。も。釈。
て。法陀。一。仏。と。あ。つ。か。十。方。佛。と。あ。つ。か。同。じ。と
み。く。り。荆。溪。と。法。教。不。續。多。在。法。陀。と。釈。り。と。
一。代。の。教。の。法。陀。を。し。り。も。し。り。と。の。法。り。い。ん
や。法。花。の。妙。體。の。宣。假。中。の。三。諦。を。以。て。規。模。わ。る。い。
因。縁。不。生。れ。法。を。自。性。の。放。よ。縁。と。は。縁。と。又。性。な
と。ゆ。い。申。宣。也。宣。あり。と。い。ふ。と。因。縁。和。合。と。も。い。ふ。十
界。れ。依。正。歷。然。と。て。互。具。融。通。せ。は。假。也。假。宣。假。
ゆ。と。い。心。実。相。の。中。道。なり。銅。鏡。れ。明。く。き。は
徳。者。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。の。と。い。ふ。像。
歷。然。と。い。ふ。と。い。ふ。假。れ。と。い。ふ。明。も。像。も。鏡。の。法。な
も。は。鏡。の。外。も。あ。り。宣。假。た。中。道。れ。徳。なり。が。こ
と。い。ふ。三。諦。の。と。い。ふ。衆。生。れ。一。念。の。心。よ。も。付。在。

法花四

十

一代之教の法陀をしりもしりとの法りいん
や法花の妙體の宣假中の三諦を以て規模わるい
因縁不生れ法を自性の放よ縁とは縁と又性な
とゆい申宣也宣ありといふと因縁和合ともいふ十
界れ依正歷然とて互具融通せは假也假宣假
ゆるとい心実相の中道なり銅鏡れ明くきは
徳者といふといふといふのといふ像
歷然といふといふ假れといふ明も像も鏡の法な
もは鏡の外もあり宣假た中道れ徳なりがこ
といふ三諦のといふ衆生れ一念の心よも付在

一々此の意なり。真云れ中も、何縁のありし
 一海やうの口傳も、古字れ名号と入佛の種ふ
 と有るあり有。一切の如来と入佛に根を執事。
 密教の法なり。天台と與稱十方佛の淨教も、心
 心と得造のふも、禪師の中も、智慧禪師と念
 仏と念も行。人もすすめ、心地ありううありん
 学名い念佛と約。密淨土も生。大事と念
 明と下とつり。とてい義の門なり。心と得と
 行と念。これ佛意も、ふも、いひかゝる。これ法
 花念仏具の法門として中あり。

山名法花。今在西方無量壽。法華安現觀世音大
 悲一體利衆生。云。此文野の大師。法花の淨
 用。慈のころよ符合なり。金剛頂經とて、釈
 の法。妙法蓮華經者。觀自在王密號也。此佛と
 聖者と名け。淨妙國土あり。成仏の力を現。
 淨淨世衆ありて。親自在と名け。や、心ありし
 法花。淨陀觀者。一體此事。此親分明あり。あやと
 信受と下。ある念仏と云。親善地花なり。つば
 鼻が。うまひくね。或や、地花ハセめて、うま
 と思。一。親善とれ。くわあづ。ハ。有。迷。心。於
 一。ハ。う。ろ。ろ。一。あ。ん。く。ハ。月。く。ハ。遍。一。切。處。互。相。

内名 上

真金としく。法は菩薩四重曼荼羅とほくゆくと
釋し給たり。十界の力。何より真實よ。大日法身
の密誦よあくる心。衆生にゆくと。一體也。同く六
大法界の體なりゆへ。まゝしては菩薩とて。そん
や。此は法を深施。執着と同體なり。まゝと云れあ
つて。胎藏のまんたる。大日一れ身也。まゝと支右曼
荼羅と云。二の支分善知識となり。有縁の機を
引て。菩提の道よ入心。あつてに深施は。大日れまの
肩。執着ハ臂也。地藏ハ指なり。觀音院の地藏とて
かり。まゝと云。又地藏院ハ九のかり。まゝと云。是一方也

大阿闍梨慶祚ハ。顯密の明匠也。山の西坂に人
とま。これ地藏堂の板。法は此に立む。一のまを。地
藏沙門の今のまを。法字思合と下。とわりの
寛印供奉。まゝと云。まゝと云。書らつて。柱らつて。ま
とまり。深施地蔵一體の習志。わつて。人なり。まゝと云。
てハ偏執我慢と成る。ハ。小智愚鈍。これ。まゝと云。
わつて。教門とま。ハ。あゆみ。法宗と云。ハ。一人
の中。まゝと云。つて。心あり。智者。心とま。あひて。愚人
の情。まゝと云。つて。あ。ま。ハ。偏執。の。ま。ハ。や。ハ。如。説。修
行。の。心。ま。と。ま。ハ。ま。ハ。ま。書。つ。の。修。ま。と。ま。ハ。ま。
世間。人。と。ま。ハ。偏執。ハ。ま。と。ま。ハ。ま。と。ま。ハ。ま。と。ま。ハ。ま。

内名 上

大三

上人は水わくもや。なまき又我も。うまきびしき。
偏執なまき力なきこと。心中は針して。法師をうらむ。
その上人は水法りんとらん

汝石集卷第四上終

汝石集卷第四 下

目録

- 上人の書にむかひ事
- 上人の持事
- 上人の女父の看病の事
- 妻の除染の事
- 須弥上人の事
- 入水上人の事
- 道人可捨執著事

池石集巻第四 下

上人の書にそとゆ事

八幡山のかかりよがいに下れ上人とるやあそ一が若
 の下にまるとまらして書をとりらるりけりが。慍む
 りのまるとるにかり人ふらひひ。おさま一くは
 半一のね上人の由席れ。お前よとらけ。おとつ六
 いうふと一いんせ。書あといふ。おとりよそ。ていん
 め。おつひらう。勿論よ。そく。おれり。けい。ま
 代よ。書あも。お上人。年を。遠く。お。ま
 後白川の法皇ハ。かく。お上人。せ。お。佛と。修
 せ。り。る。お。ひ。ひ。り。は。く。い。ま。そ。も。か。う。り。る。ま

乃悲田ありて。こころを以て殺盜邪淫妄語貪嗔
嫉妬放逸建乱ありて。ゆゑ失くさるるをわらうと云
事あり。そしてはあり。本後お遠別離れ悲歎め志
けこころろろろ癡癡れありおほきつひに衣傷の
かのほよこごもつらんゑの業とゆ。煩惱の根とゆ
くひをこころろろろ。くまごころにけこころろろ
苦とくろやゆと。まごころ。徳とひらひら。中
よろろあり。妻妾となく。苦患よろろ。男もあり。
こころと軟賊。また毒蛇。類と。徳となかり。道代
換。ただの。こころろろろ。わらひあり。不淨あり。ま
常也。幻化なり。苦惱なり。じあ。く。二世の身と

くろろろろろろろろろろ。南山大師れ云。四百四
種は病の宿食と根なり。三途八難の苦。女人を根
なり。今法と解するると云人をこころに。財色を
貪と。そして道人はわらひ。又自念にわらひ。若し
くはあり。知して。こころろろろ。解脱の道な
一。千仏世に。ろろろ。財と貪一。
色とわらひ。人。餘徳あり。こころろろ。財と貪一。
ど。道俗二。ろろ。財色れ。ろろ。に。二百三十六の
大地獄の中。ろろ。千萬種れ。苦とくろろろ。
淨心觀あり。生死乃長夜會離れろろ。ひ。六
趣。やじろろ。ろろ。解脱の道。ろろろ。

事 新がし

上人の子ハウの母と智者とてむりなりとせよ
 或人難しと云又ハ似る聖はべらびと云答へて
 云うらハ一生不犯の誓れハ父に似て誓らんども
 らんと答へて比真云云南無ハ咸通傳ハ大所天人
 母じうらと云く羅什乱行のやめくあり實りるや
 答へく云三賢の菩薩也不可汝法云云私推ハ
 未代ハ持戒ハ人希也然ハ正法と弘通セハ可者
 益々然と云ハ持戒ハ又問云法華ハ前後有
 四品何唯什公譯天下ハ統之答ハ七佛の
 世ハ每度翻譯の三統也十統傳ハ正法ハ

犯戒ハ正法と説く可ハ所と云ハ心比觀經の
 何日之安樂ハ不親由國王大臣ハ慈恩
 大所釈と云く是王素と云りハ云と云
 歳母のともと云り犯戒後ハ縵衣と云りて寺ハ
 外ハ居ハ寺ハ入て說法の時ハたびと云ハ我身ハ
 浴泥のごと云ハ説法ハ蓮花のごと云ハ樹ハ
 華翻譯の卷ハ四人ハ弟子と云ハ譯セハ富
 樓那の授記の文の人天交接兩得相見ハ肇公云
 譯の終也古譯ハ人見天々見人と譯セハ是ハ
 終と云ハ少くハ釋ハ是と云ハ仍ハ人ハこれ
 かりてハ肇公と云り一統ハ敵と云ハ云ハ

佛道を行へ。智者とあつても。解つて言ふ事あるま
 じ。涅槃樂はよの永滅後。飢饉のため。受
 戒のあかろく下。是と意樂換害れものとは
 あり。戒のよめりて之とも。涅槃を約きべし。
 渡世と意とも心なり。人代表とくを
 解つて。解脱と約せさる。空一を信養とくを
 八賊有戒とく賊の方とあり。戒の禿居士とくあり。
 名沙衣とくう稱師とあり。あつて未代
 也。つ世に法滅の善提心と教。如説れ修行
 とし。ひまん人まめりたり。地戒と持

法名四 下

九

一は破戒也。後世も施とくあり。賊分齊と
 あり。施とく財と徒母失。是賊なり。
 二は罪分齊。二途とゆわく。もつんと思。是心せとくあり。
 三は福分齊。天上よ生せん。あよおと。四は道分齊。
 涅槃れたり。おと。又日用と云。破戒して。おと。
 うと。盗用。賊も也。二は負債用持戒なり。世。六觀
 せ。負債物となり。施とくあり。一
 三は親友用。三果の聖者。親親れ物と用。あり。
 四は自己用。涅槃を無依の徳とあり。自己の物と用
 破戒の相と賊分齊とあり。是。

戒ハ律の中ニ微細也。たとひ偷盜ハ公事の違ふも
 つらうらへ他ノ財と換ふ也。違ふればむとむなり
 たとひ親身一糸ハ利の違ふ也。他と換ふるとむす
 とむす。日月三実物ハ盗たる事。施主の福少んを
 うのふゆなり。と換ふに是とむの戒持とむ人
 希也。弁説。知て不行ハ圓の師之。不知たむとむ
 とも圓ハ利也。知而行とむハ圓の實也。不知やむを
 圓ハ賊とむなり。學と行事となく。行とむ事も
 あく。やむとむ。わさひたり。違て圓の匠のをさ
 する人の。世の中はむかへ。これのまめけり。むかへ
 たり。とむ世間の信ハ中の事也。此はの中しれ

みかへる。よむ。智ハ相兼べ。大輪も云。智ハ
 有ると。ゆやあとの實相とむ。眼ハ通と云。燈
 なる圓ハ中の。ゆやあとの。智ハ通と云。燈
 実おととむ。燈ハ通と云。眼ハ通と云。智ハ通
 多の有り。実おととむ。眼ハ通と云。明ハ中ハあつが
 とも。智ハ通と云。多のゆやあとの。人ハ如も
 牛也とむ。ゆやあとの。人ハ如も。世間ハむかへ。
 とも。やむ。三ハ後方齊と云。善導ハ釈也。
 人のゆやあとの。牛ありとも。心も通はれぬ。
 施戒。釋定者。養等ハ福行せざるもの。たむとむ
 る人なり。ゆやあとの。畜類ハ如も。

南山宣律師業疏叙中引智滿云六情根
完具智成金亦明利而不求道法唐受身智慧
禽獸亦皆知欲樂以自恣而不知方便為道修者
事既已得人身道勉自利益不知修道行與
彼亦何異道行何耶一切無染者是也良由
衆生無始封著是此是彼是得是失因之起深
纏縛有獄故世鈍者多著財色小有利者多
貪者多鬼已上祖師此意之示也大悲
律師云只深汗之誠心世間之事一乃至善提
提繫之著之汗之深汗之乃
上人乃女父と看病之る事

坂東のわつ山寺の別當孝子返して上人ありけり
孝子門徒あかりなりた年より後中風也
屋よりいのかみなり也。乃ハ各病也。命もあ
りて年月とあはれまに。孝子看病志しけり
て。いとあやうき病に。はくよりそとなく
女人一人あきて。沛看病し。らん中。つとふと
も。孝子あはれ。下。そゆり。つとふと。念
らる。看病志しけり。い。あ。人。ぞ。と。ふ。ひ。者
よ。ゆり。人。よ。ま。く。積。ま。の。と。ま。者。よ。あ。り。ど
わ。り。あ。ま。り。あ。ま。り。く。看。病。し。月。日。も。歴
け。ま。る。病。人。し。り。ん。法。世。法。也。思。を。ま

と下じ。さ付程に。京中れ道徳男女。さてもよす
あるがうそ。結縁せんそて。くらあつまり。めさめさ
ふ。あがまんといふ。あそむ。海邊なり。あひさ
ら。ゆよ人をい。び事志うる。なう。ひとて。うぬ
ふ。も。思ひ。ひる。さう。か。に。目。教。と。そ。は。備。し。也。
行水用こ。一。修。終。と。さ。時。刻。出。つ。さ。又。日。法。の
上人の中。よ。し。き。る。ハ。今。は。ら。道。介。の。條。は。ぬ。く。
あ。の。子。海。を。ま。り。く。と。も。と。凡。ま。れ。心。ハ。刹。那。の
る。よ。と。く。く。う。つ。る。な。ま。り。ひ。し。と。ハ。あ。高。執。り。持。り。
又。思。食。と。も。ゆ。あ。ら。ハ。修。し。と。あ。ん。と。して。心。の。を
こ。に。の。う。る。あ。く。し。也。也。修。終。あ。ら。ハ。修。り。づ。く。さ。と

化今ハ喜云と銘あく。若くは。わ。つ。し。時。以上人
と。よ。や。と。思。ん。し。り。つ。ハ。始。思。ひ。さ。ら。し。時。心。も
勇。猛。也。二。日。れ。昨。湯。屋。の。坊。の。な。け。く。あ。坊。を。焼
死。あ。ん。と。也。一。と。中。の。一。時。ハ。今。一。日。と。さ。り。く。修。終。し
て。か。く。修。り。終。事。と。さ。り。し。と。や。あ。ん。と。思。ひ。し。か。け
ね。心。も。ゆ。く。し。也。つ。も。さ。死。せ。と。や。さ。も。若。く。ぬ
そ。や。く。う。う。さ。年。来。れ。才。子。中。に。は。修。り。あ
かり。は。修。止。家。法師。系。よ。す。し。り。つ。こ。れ。事。り。ま。り
て。さ。さ。さ。さ。る。る。右。場。よ。入。り。ま。し。た。か。し。さ。し。は。し
け。か。り。氣。色。し。也。隣。子。の。さ。つ。に。井。より。て。ま。り。人。を
お。様。よ。か。ら。う。と。や。の。く。殺。た。り。よ。し。き。ら。ハ。も。の。義

かりんといふ。さうさうの時に事。さうさうの
 ちり枝路。一。時目。さうさう。結縁。人々も
 あつさり。ねがまんとも。ねがまん。さうさう。さう
 ら異義。ねがまん。事。返。く。有。ま。た。事。あり。
 内。性。生。さ。う。さ。う。さ。う。天。魔。の。所。為。り。て。我。
 らしく。水。け。水。さ。う。さ。う。さ。う。時。刻。の。び
 めん。す。の。さ。う。け。さ。う。さ。う。人。も。物。ひ。さ。う。さ。う。
 行。水。一。坊。の。前。の。様。本。よ。繩。と。り。く。さ。う。さ。う。
 死。よ。り。り。人。も。ね。が。ま。ん。と。さ。う。さ。う。さ。う。
 遠。物。と。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。其。後。半。年。づ。り
 と。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。

羅。尼。あ。ん。と。さ。う。さ。う。さ。う。護。身。一。陀。
 世。云。り。彼。さ。う。さ。う。上。へ。付。て。あ。り。也。信。正。清。房。
 割。一。路。へ。一。思。ひ。さ。う。さ。う。思。ひ。一。も。さ。う。さ。う。
 さ。う。さ。う。一。は。信。は。と。さ。う。さ。う。一。實。一。さ。う。念。執。心。を。
 わ。い。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。一。た。一。思。ひ。さ。う。さ。う。さ。う。
 ね。よ。り。一。な。さ。う。名。字。よ。り。て。魔。道。一。入。り。事。
 ね。よ。り。一。な。さ。う。名。字。よ。り。て。魔。道。一。入。り。事。
 う。わ。り。さ。う。さ。う。魔。界。の。さ。う。さ。う。一。も。智。恵。も。も。縁。の
 心。わ。り。さ。う。さ。う。の。事。の。ね。す。へ。さ。う。一。愚。癡。の。つ。て。と
 不。く。名。字。を。思。ひ。さ。う。一。罪。業。の。さ。う。さ。う。魔。界。の

とくくひく。船に乗せて。水うしよこつてぬ。
 びよん。うらうら。修治の二つ。凡ゆる。也。志。た。ま。ま。こ。
 新事。た。ま。も。あ。や。ま。り。と。も。不。免。し。り。ゆ。ん。
 性。生。れ。ち。事。中。修。治。の。作。は。り。ゆ。ん。ゆ。ん。事。
 な。ま。い。く。や。わ。か。つ。る。あ。い。そ。ま。ま。付。く。と。も。
 水。に。入。る。海。色。い。り。り。あ。念。執。念。も。あり。命。ま。
 行。く。餘。念。も。わ。く。と。も。性。生。不。定。也。か。く。心。
 心。あり。あ。う。ま。か。く。い。繩。と。り。下。り。さ。り。た。
 の。ゆ。り。流。す。て。し。り。り。流。す。は。り。て。念。れ。救。返。
 して。花。入。ぬ。お。り。ま。に。お。り。し。程。に。た。り。成。り。た。れ。ど。
 引。出。し。つ。ぬ。ま。く。う。り。り。ぬ。あ。れ。中。し。り。と。く。

く。う。り。り。と。く。あ。念。あ。り。り。は。い。心。よ。て。い。り。り。
 思。ひ。あ。り。り。たり。たり。そ。を。云。け。り。さ。て。ん。ゆ。ん。と。ま。
 今。ま。ま。と。ま。と。ま。度。ハ。ゆ。り。ぬ。又。日。は。る。と。く。今。ま。ま。
 さ。り。り。も。さ。り。船。に。乗。り。出。ぬ。さ。り。り。と。く。り。
 そ。び。入。ぬ。又。繩。と。り。け。ま。又。引。あ。ひ。ぬ。その。の。り。
 又。ま。ま。あ。り。し。又。出。ぬ。日。は。る。ゆ。ん。と。ま。て。例。の。
 ち。り。り。と。く。と。思。ひ。り。り。程。に。と。ま。ハ。さ。ひ。
 入。て。繩。を。ひ。り。り。と。さ。り。り。中。の。中。は。善。業。ま。ま。と。
 彼。れ。上。よ。い。志。あ。り。た。あ。ひ。り。り。目。か。た。り。り。と。ま。
 隨。喜。の。後。り。り。り。あ。り。ゆ。ん。名。ま。ま。相。と。ま。
 て。性。生。れ。ち。事。中。と。く。い。り。り。眞。實。の。信。心。教。行。

此方にて素懐いそぐづさりのくらびなり上人
よりハ結くあしして性生しあふ事心しこ
くしそそくゆき

道人執著とどうべさ事

小原ハ性正顯真座と四十日日間性生要集の
後依し結ふりあたり法座房の上人後業房
の上人あんど後依の象に多小原の上人より
もる座につくなり如法の後世ハ多乃後依也
りり四十八日切とゆふんよく正教しとれ法座房
後業房あ上人中ちちくわく法座房し
それりハ法座房後依の正教いし心なりや後業

房母しそれいさハ秦太親一ありとも執心あらん
物ハとらなりしとも心ゆてとてかてし我傍正
御着のりりしとて法座房の上人より何事とら
より結ふりや結くさけり神ハ後業房かく下は
しとて法座房しそれいさハ法座房の上人より
くくともなりしとてけ程の法依しとてさかたに
りて義事とら結りしとて法座房の上人より
りて或人より結りしとて法座房の上人より
の執心より結りしとて法座房の上人より
一代の結教方便の門ひらけきたた象生と執
心より結りしとて法座房の上人より

さよハ法苑にも。存生如く著引之令得出と説
てた顛倒のむすまをたのむけゆ人善提
ハ無得也と云。存生ハ執著れざるうさゆ人ハ仏の
説法の中も。般若とさる法ハ事三十年。結縁の
般若。只第一義空の二理也。自性清淨。無相寂滅の
そらよ。能取ハ分別を生ず。自他ハ執著を生じ
て。無量にがんあふとあう。無常のあ若とく。般
若の力とて。煩惱の藪と履さ生死の海と渡
す。涅槃の岸よ。事ハ執著とさるうさる
外ハ事ハあふとあふ。一切れさるたうあ人地
あうとさる西の義法多のさる結縁の法門と云と

つわつてと。執著の心ハたぐ一の不了の念ハ月
光合曇れ情帯之。一切の法門ハ只中道第一義空
也。大智論ハ般若経ハ十八空と釈とさるていつく
宣ハ二空とさる。のさる不れ法ハさるていつく
乃名成たつたさ。火ハ火とさる。執しとさる
がひあ。松の火とさる。竹の火とさる。一ハ生
れ内空とやれゆ。内空とさる。外境とやれゆ
了ハ外空とさる。中間の執とやらん。て内外
宣とさる。根ハ法相とのさる。枝末とのさる
たらやと。佛法修じ人根ハ執とのさる
して。法相とさる。法ハ相とさる。情帯とさる。解

力あり。先徳道行如何と問く。一切無深也と
 云り。無深れ一句行者の所心なり。一俗於云く
 事と云れられた心やとく。情よりほこむを累
 ひたり。と。さ積むつめ。一乃賢人。右にほつて
 て。つ心なると。そのまう道と解。あ。あ。あ。
 ろろなるべ。人れ世にあつと云る。後者より
 か。り。業ををやと。体た。若とせら。く。せ。
 勝。とりて。富。と。身。大。な。ま。は。事。あり。信。う。
 け。も。心。な。れ。一。新。れ。既。お。か。け。も。若。多。う。と。
 一。只。人。の。ま。と。う。一。人の。好。ひ。と。積。た。上。に。信。え。
 下。と。う。り。と。世。に。信。ひ。と。は。は。り。つ。る。あ。つ。な。く。う。

ときて業う。う。と。あ。か。さ。と。り。た。の。う。と。思。ひ
 なる。と。り。身。も。や。と。心。と。ち。つ。つ。な。う。と。と。樂。と
 去。り。の。實。一。と。ろ。が。な。り。の。樂。天。云。富。貴。亦。有
 苦。在。心。危。憂。貧。賤。亦。有。樂。在。身。自。由。此
 言。實。な。り。と。み。ん。う。と。一。身。あ。や。く。い。た。人の。た。ゆ
 とも。と。り。あ。一。林。下。の。貧。道。の。風。月。う。そ。う。て。
 法。味。と。あ。ら。つ。ひ。と。と。道。門。よ。そ。あ。身。も。解。脱。と。約
 一。也。世。と。い。は。れ。り。一。れ。と。く。思。ひ。身。心。と。ま。の。の。こ
 と。と。と。り。と。希。望。あ。く。貪。求。な。く。い。高。時。も。や
 ひ。つ。う。め。で。後。生。も。た。り。と。有。一。賢。首。菩。薩。の
 一。く。真。樂。本。有。失。而。不。知。妄。苦。本。宜。得。而。不。覺

とつて心とてわておごる終りあり終

圭峯此云と歎ゆて思いつくをゆり

とつて少く地水火風と有りたつて終るを告りしる

やそれ迄借あつた地と水火と有りたつて終るを告りしる

りしる少く地水火風と有りたつて終るを告りしる

あやまると終るを告りしる

あやまると終るを告りしる

随分述懐

無任八十三歳

徳治三年 申 五月二十一日

神護寺

迎接院

沙石集卷第四下終

乾元第二曆 癸 季春之候此書道證上人

奉渡畢

永仁第二曆 甲 中春始之三日於洛陽正親町油之

小路 壬子 偏是為佛法興隆欲令弘通耳

片山負土

春秋四十五

裏書の中。肝愛乃事。尚くかくくはつて終

けお終。元年草案。未及法書之礼不慮は終る

披露仍同法書写て此本と下。文字誤あり。仍。通

とたり。裏書かく法書。老老之上。病中教くたり。

心と得る法書也。此作下

